

【高等学校用】

令和2年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立伊万里商業高等学校・佐賀県立伊万里実業高等学校商業キャンパス
-----	------------------------------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>○いじめ事案については件数も昨年度よりは多くあったが、撲滅に向けて小さな情報も見逃さずスクールカウンセラーとも連携し迅速にかつ丁寧に対応できた。安全安心な学校生活を送ることができるようにするためにも、教職員が率先して対応していかななくてはならない。</p> <p>○再編統合1年目であり、両キャンパス連携を取りながら学校運営を行ったが、一体感の醸成については、再編前の高校も存在することから配慮をしながらの学校行事となった。両キャンパス統一の基準はあるものの、運用については詳細を詰める必要があることもわかってきた。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>【実業】心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かし社会に貢献する人材を育成する。</p> <p>【商業】生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質（知識・技能）を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>《～見る夢は叶わず 追う夢は叶う～》をスローガンとして、心身ともに健全な人材の育成に努めることにより、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>○集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し、協調性を高める。</p> <p>○基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。</p> <p>○新しいものを創造するとともに、来るべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○年間計画に基づき基礎学力の向上を図る。	○国語テスト・英語テストの各クラスの平均点が18点(20点満点)以上 ○進路マップのGTZでレベルDの生徒を40%未満	・国語力、英語力向上のための小テストを実施する。 ・成績優秀者は年度末に学校長から表彰を行う。
	○読書活動の推進	○(学校独自成果指標・任意) ○生徒図書委員会を年間3回実施する。 ○生徒一人あたりの年間貸出数4冊以上	・朝読書の実施 ・図書館だよりを毎月発行し、新刊の紹介を行う。 ・図書館活用に向けた生徒図書委員で話し合いを持つ。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講話を受けて「ためになった」と答える生徒が80%以上 ○特別指導件数0件	・防犯講話、交通講話、ネットマナー講話など通して規範意識を培う。 ・人権教育を充実させる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題に対し未然防止、早期発見早期対応、再発防止への組織的な対応ができていると回答した教員が80%以上	・毎月1回いじめアンケートを実施する。 ・いじめのない学校宣言を生徒会を中心として行う。 ・スクールカウンセラーと連携して生徒の状況把握を行う。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○講話を受けて「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかという感じる」と回答した生徒が70%以上 ○地域ボランティア活動を年間2回実施	・地域に関する講演会の実施 ・地域ボランティア活動(ゴミ拾い)の実施
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「お弁当の日」に参加した生徒の割合50%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・食育だよりの毎学期発行 ・お弁当の日(自分で弁当をつくる)の設定 ・食育に関するアンケートの実施
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○学校管理下での怪我等による一人あたりの災害給付申請件数を5%以下とする。 ●生徒の交通事故を0にする。	・電子黒板を使った生徒による保健ニュースの説明 ・怪我予防のDVDを視聴 ・交通安全意識啓発を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校退庁日の設定 ・業務記録表の記録 ・教職員の退勤時間の設定

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○ICT利活用	○ICT機器を活用した家庭学習の支援	○家庭学習のための課題配付を学期ごと(3回以上)に行う。	・機器の設定 ・家庭の通信環境の把握 ・県教委からの支援を得る ・ICT機器の授業等での活用
○校舎制	○部活動の円滑な実施のためのスクールバスの活用	○スクールバス利用実績が0となる日がないようにする。	・部活動ごとの活動場所の設定 ・ICカードでスクールバス利用者の把握 ・移動が必要な部員数の把握